

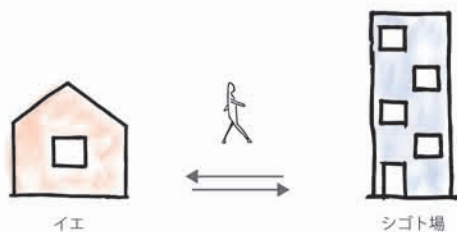


向きあうイエ ~住まう+働く~

住むという事。働くという事。それら向きあわせる事で互いに干渉させあいこれからの郊外住宅の新定義を提案します。

既存の郊外住宅の建ち方に着目しました。通常敷地の真ん中付近に建てられる事が多くみられます。この建て方だとイエの周りだけの外部空間になっていました。しかし、境界線上にイエを分割し建てる事でその間に外部空間を得る事が出来ます。分割したイエに「住まう」「働く」を組み合わせる事でこれまでの郊外住宅では生まれなかった「住みながら働ける郊外住宅」となる事が出来ます。この外部空間は働く種類によって様々なかたちになり、その緩やかな変化がマチにあらわれてきます。これからの郊外住宅はただ住まうのではなく、「人」と「マチ」が向きあひながら住まえる郊外住宅にしていくことで豊かになると考えています。

従来



これまでの郊外住宅の住み方、働き方というのは朝都心に働きに出かけて、夜寝る為に家に帰ってくる。住む事と働く事が分断されていました。たまの休みの日にはちょっとした庭に水まきし手入れする。成長する子供達との戯れ。都心の狭く密集した住宅地よりちょっと都心から離れた場所。住環境が良く、低価格。それが魅力であった郊外の住宅。

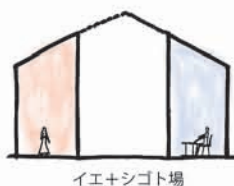


これまでの住宅の建て方は隣地境界線から建物を後退させてつくられてきました。それは、法律や都市計画に基づいたものでした。その方法は一見すると、お隣のイエの住環境を守っているような感じがしますが、実際はどうでしょうか？隣地境界線と建物の隙間しが生まれず決して良い空間とは言えないはずです。

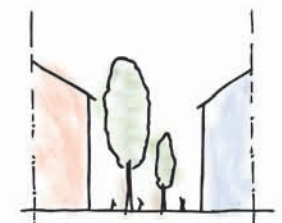


これまでの郊外住宅のかたち。

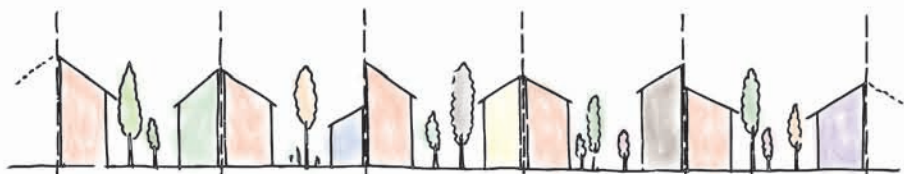
新定義



これからの郊外の住宅は住む事と働く事を共存させ無理のない生活スタイルをつくる事が可能です。それは、技術の進歩により大きな組織に属した働き方から、小さな個人の働き方への変化ともいえます。



建物を住む場所と働く場所とで分割して、それらを境界線に沿わせて配置する。そうすると敷地の中央の空間が開けます。ここは住む場所（プライベート）と働く場所（パブリック）の中間領域であり、どちらもいえない多様な空間が生まれます。「住まう」と「働く」の緩衝空間となり緩やかに繋がりが生まれます。同時にそこはマチに対しての繋がりでもあり、これまでとは違ったコミュニティの場でもあります。



これまでの郊外住宅のかたちを受け継ぎながらマチ並みをつくっていきます。



珈琲屋さんのイエ

洋服屋さんのイエ

畑のあるイエ

子育てのイエ

本屋さんのイエ